

鼓室洞と中耳真珠腫の鼓室洞進展について

日本耳科学会用語委員会

山本 裕, 綾仁 悠介, 伊藤 吏, 我那覇 章, 小森 学, 高橋 昌寛,
平賀 良彦, 美内 慎也, 森田 由香, 中川 尚志, 萩森 伸一, 東野 哲也

中耳真珠腫進展度分類 2015 は, 真珠腫の病態を定義し進展度を表現する分類として現在本邦で広く用いられている。またヨーロッパ耳科学会 (EASO) と日本耳科学会との間で国際コンセンサスが形成され, 中耳真珠腫進展度分類 2015 をほぼ踏襲する形で 2017 年には「EAONO/JOS Joint Consensus Statements on the Definitions, Classification and Staging of Middle Ear Cholesteatoma」(EAONO/JOS 分類) が発表された。この分類は, 中耳真珠腫研究を行う上でのスタンダードとして世界で広く用いられている。

EAONO/JOS 分類は中耳真珠腫進展度分類 2015 を基に作成されたが, 中耳腔の区分を PTAM とは若干異なる STAM で規定している。TAM については 2 つの基準では同様であるが, 中耳真珠腫進展度分類では P: 前鼓室 (protympanum) と表現していたものを S1: supratubal recess とし, さらに S2: sinus tympani を加え, S1, S2 を difficult access sites と規定している。中耳真珠腫進展度分類での P と EAONO/JOS 分類での S1 はほぼ領域的に近似されるが, S2: sinus tympani については, もともと鼓室洞 (sinus tympani) に対する定義が曖昧であること, そこへの進展の判断に客観性を担保することが必ずしも容易ではないことから, 中耳真珠腫進展度分類への採用は見合わせていた経緯がある。しかし両分類の間での互換性を担保する上で, また進展の重症度, 手術の難易度を表現する上で, 鼓室洞進展の有無は極めて重要な意味を持つ。ここで改めて鼓室洞 (sinus tympani) の解剖学的な定義について過去の報告を紹介し, 鼓室洞に対する理解を深めたい。

鼓室洞と鼓室洞進展について

錐体隆起から鼓室岬角に伸びる骨性隆起を ponticulus と呼び, その下方にある正円窓窩の上方から後方に伸びる骨性隆起を subiculum と呼ぶ。Schuknecht¹⁾ は鼓室洞を「錐体隆起と顔面神経の内側, 骨迷路の外側に位置

し, ponticulus と外側半規管が上方限界, 後半規管が後方限界, subiculum, styloid eminence, 頸静脈壁が下方限界となる」と定義している。野村ら²⁾ は「鼓室の内側で ponticulus と subiculum の間にあり, 後方にひろがり錐体隆起, 顔面神経の内側, 後半規管の外側に存在する」としている。

また, Marchioni ら³⁾ は正円窓の下方には後壁に伸びる骨性隆起 finiculus があり, これと subiculum との間に囲まれた部位を sinus subtympanicus と呼び, 鼓室洞と同様の扱いをすることがあるとしている。また finiculus と subiculum にはバリエーションがあり, 完全な隔壁を形成するものから bridging bone の形態, 欠損するものまで存在すると述べている。

実際の中耳真珠腫などに対する手術中には, これらの解剖学的メルクマールの確認が困難な場合も多い。また鼓室洞の発育には症例毎に大きなバリエーションがみられる。そのため真珠腫の進展を評価する際には「錐体隆起下方で顔面神経垂直部内側の後方へのくぼみ」としてとらえて判断するのが現実的である。いずれにしろ, 上記のような解剖学的な定義と周辺の解剖をよく理解した上で, 鼓室洞への病変の進展の有無を判定することが重要である。

参考文献

- 1) Schuknecht HF: Tympanic Cavity. In: Schuknecht's Pathology of The Ear Third Edition (Eds. Merchant SN, Nadol JB Jr.), People's Medical Pub. House. Shelton, 2010, pp.56-57.
- 2) 野村恭也, 原田勇彦, 平出文久, 他: 鼓室洞. 耳科学アトラス第 4 版一形態と計測値一 (野村恭也, 原田勇彦, 平出文久, 小林一女, 木村百合香編). 丸善出版, 東京, 2017, pp.90.
- 3) Marchioni D, Alicandri-Ciuffelli M, Piccinini A, et al.: Inferior retrotympanum revisited: an endoscopic anatomic study. Laryngoscope 120: 1880-1886, 2010.